

## 1 基本目標の概要

「しごと」と「ひと」の好循環を作り出すため、ものづくりや医療、農業などの強みを活かした産業振興・競争力強化などに産学官金が連携して取り組み、質・量ともに魅力ある、安定した雇用を創出する。  
 さらに、地域企業と学生のマッチングなどに積極的に取り組み、市内の大学等をはじめとした新卒者の地元就職を促進する。

### 基本目標

#### 安定した雇用を創出する

##### 【数値目標】

- ・基準年(H26年度:16,507人)を上回る年間新規雇用者数を毎年創出する。
- ・市内大学等の新卒者の市内企業への就職率

### 施策の基本的方向

- ① ものづくりなど 頑張る企業を地域で応援する
- ② 医療の集積を活かす
- ③ 職業としての農業の魅力を高める
- ④ 久留米市での就業を応援する

### 重点事業

#### 【①関連】

耳納北麓(職遊一体型)グリーンアルカディア創生パッケージ(新たな産業拠点整備事業)

#### 【③関連】

雇用・就労応援パッケージ(久留米でやってみん農・就農なんでも応援事業)

#### 【④関連】

雇用・就労応援パッケージ(「久留米で創業」応援事業、学生・企業Win<sup>2</sup>事業)

## 2 平成29年度の新規・拡充の取り組み等

### ①ものづくりなど頑張る企業を地域で応援する

- ・産学官金による「久留米市産業振興協議会」の取組みの中で、ものづくり、売れる商品づくり、販路開拓、資金調達の支援を実施。
- ・販路拡大を図るため、電子商取引に係るセミナーの実施や、展示会出展の際に必要な経費の一部を助成。
- ・福岡県・うきは市と連携し、久留米・うきは工業用地造成工事に着手。



産学官連携による広域商談会

### ②医療の集積を活かす

- ・理化学研究所と地域の大学、企業との共同研究に向けた協議を実施。



バイオベンチャーによる研究

### ③職業としての農業の魅力を高める

- ・「農業実践研修事業」により就農前の農業技術習得を支援。
- ・新規就農者の初期設備投資の負担を軽減するため、「就農支援金」による支援を開始。



農業実践研修

### ④久留米市での就業を応援する

- ・「くるめ創業ロケット」を拠点とした創業の支援を実施。
- ・「雇用・就労推進協議会」を中心に地元企業への就職等の取組みを支援。
- ・「久留米創業ネットワーク会議」構成団体との連携による創業支援セミナー等開催。

## 3 数値目標・KPI・課題

### 数値目標

数値目標	基準値→ H31目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
基準年を上回る年間新規雇用者数を毎年創出する	16,507人 ▼ 基準年を毎年上回る	H27	16,507人以上	16,639人	○	A
		H28	16,507人以上	17,375人	○	
		H29	16,507人以上	17,861人	○	
		H30	16,507人以上			
		H31	16,507人以上			
市内の大学等の新卒者の市内企業への就職率	12% ▼ 17%	H27	13.0%	12.9%	△	B
		H28	14.0%	11.2%	×	
		H29	15.0%	9.6%	×	
		H30	16.0%			
		H31	17.0%			

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) -：現時点では判断が困難  
 A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

### ■評価のポイント

#### <新規雇用者数>

- ・29年度の実績は、目標を達成。
- ・景況の継続や、産業団地等への企業進出が進んだことなどが考えられる。

#### <市内企業への就職率>

- ・29年度の実績が前年度をさらに下回り、目標を達成することはできなかった。
- ・全国的に有効求人倍率が高く、大都市圏での就職に繋がっていることが要因であると考えられる。

### KPI

施策の基本的方向	KPI数	H29年度の進捗度	目標年度(H31年度末)の達成見込み
①ものづくりなど 頑張る企業を地域で応援する	12	○ 7 △ 2 × 2 - 1	A 9 B 3
②医療の集積を活かす	3	○ 2 - 1	A 3
③職業としての農業の魅力を高める	4	○ 1 △ 1 - 2	A 3 B 1
④久留米市での就業を応援する	2	○ 2	A 2

○：達成できた (100%以上)  
 △：概ね達成できた (70-100%未満)  
 ×：達成できなかった (70%未満)  
 -：現時点では判断が困難

A：目標を達成できる見込み  
 B：目標達成には努力を要する  
 C：目標達成には厳しい状況にある

### 課題

- ①ものづくりなど頑張る企業を地域で応援する・・・企業の成長や創業等を地域全体で支援する取組みの充実・強化。
- ②医療の集積を活かす・・・医療の集積、共同研究成果を活用した製品化・事業化の促進。
- ③職業としての農業の魅力を高める・・・次世代を担う若い農業者の確保及び育成。
- ④久留米市での就業を応援する・・・地元企業で働く魅力発信の更なる強化、労働環境改善等の促進。

## 4 今後の展開

**全般：**引き続き、久留米市産業振興協議会、久留米市雇用・就労推進協議会による産学官金労の連携による民間主体の取組みを推進する。

### ①ものづくりなど頑張る企業を地域で応援する

- ・地域企業の新事業展開等への支援を強化する。また、新産業団地の開発及び企業誘致を着実に進めるとともに、中心市街地等へのオフィス誘致も積極的に行う。

### ②医療の集積を活かす

- ・理化学研究所との連携を強化して事業化を促進するとともに、連携拠点化の推進に取り組む。

### ③職業としての農業の魅力を高める

- ・「就農前」から「就農後の営農定着」まで、それぞれの段階に応じた支援を行う。また、集落営農組織の法人化や経営力向上のための取組みを強化する。

### ④久留米市での就業を応援する

- ・全国的に優れた強みを有する市内企業の魅力発信や、これまでに作成した情報誌「くるめで働こう！」を活用した情報発信など、産学官金労の取組みの強化による効果的な事業展開を図る。

### 1 基本目標の概要

久留米市の人口減少を抑制するため、移住希望者に久留米暮らしのよさを実感してもらい、市外からの転入者、とりわけ大都市圏からの転入者の増加に取り組む。

また、戦略的な成長分野として「観光」を位置づけ、豊富な地域資源を活用して国内外から観光客を呼び込み、地域経済の活性化に結び付けていく。

#### 基本目標

#### 久留米市への新しい人の流れをつくる

- 【数値目標】
- 大都市圏への転出超過数 : 650人 ⇒ 550人  
(H24~26年度平均) (H31年度までの5年間平均)
  - 年間観光客数 : 515万人 ⇒ 700万人  
(H25年) (H31年)

#### 施策の基本的方向

- ⑤ 久留米を知って感じてもらう
- ⑥ 希望の暮らしをサポートする
- ⑦ 観光と文化で人を呼び込む

#### 重点事業

- 【⑥関連】
- 移住・定住安心サポートパッケージ（移住サポート事業、文化芸術・スポーツによる楽しみ創出事業）
- 【⑦関連】
- 耳納北麓（職遊一体型）グリーンアルカディア創生パッケージ（耳納北麓観光振興事業）
  - オール久留米で観光客獲得パッケージ（MICE誘致推進事業、インバウンド推進のための環境整備事業、西鉄沿線周遊観光推進事業、久留米版DMO設置事業）

### 2 平成29年度の新規・拡充の取り組み等

#### ⑤久留米を知って感じてもらう

- 天神ライオン広場でのPRイベント「久留米キャンペーン」の実施(2回)
- 魅力発信、移住定住情報総合サイトの新規作成（公開は30年5月）
- 子育て世代向けパンフレットの新規作成
- 移住希望者の多様なニーズに対応する、オーダーメイド型の久留米見学ツアーの新規実施（7組13名）



#### ⑥希望の暮らしをサポートする

- アンテナショップ福岡久留米館における、移住定住に関する出張相談窓口の設置（週1回）
- キャンペーン会場等での出張相談の実施



#### ⑦観光と文化で人を呼び込む

- 田主丸ふるさと会館改修による情報発信強化
- インバウンド推進に向けた、外国人旅行客宿泊補助金制度の創設
- 交流促進や観光客誘客などを目的とした台湾への調査団派遣
- ケニア共和国の東京オリンピック、パラリンピックの事前キャンプ誘致
- 久留米市単独の九州オールレイイベントの実施
- 歴史ルート「攻める！戦国高良山」の体験型イベント実施



### 3 数値目標・KPI・課題

#### 数値目標

数値目標	基準値⇒ H31目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
大都市圏への転出超過数	650人/年 ▼ 5年間の平均 550人/年	H27	550人	547人	○	B
		H28	550人	467人	○	
		H29	550人	630人	×	
		H30	550人			
		H31	550人			
年間観光客数	515万人 ▼ 700万人	H27	530万人	525万人	×	B
		H28	600万人	537万人	×	
		H29	650万人	集計中	—	
		H30	680万人			
		H31	700万人			

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) —：現時点では判断が困難  
A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

#### KPI

施策の基本的方向	KPI数	H29年度の進捗度
⑤久留米を知って感じてもらう	2	○ 2
⑥希望の暮らしをサポートする	1	○ 1
⑦観光と文化で人を呼び込む	10	○ 2    △ 3    × 1    — 4

目標年度（H31年度末）の達成見込み
A 2
A 1
A 7    B 3

○：達成できた(100%以上)  
△：概ね達成できた(70-100%未満)  
×：達成できなかった(70%未満)  
—：現時点では判断が困難  
A：目標を達成できる見込み  
B：目標達成には努力を要する  
C：目標達成には厳しい状況にある

#### 課題

#### ⑤久留米を知って感じてもらう

・久留米市からの転出超過傾向が続く福岡都市圏をターゲットに、市の魅力情報の発信や移住定住促進施策を拡充する必要がある。

#### ⑥希望の暮らしをサポートする

・移住定住の相談は増加傾向にあることから、実際の移住につなげるための支援や相談対応の充実が必要である。

#### ⑦観光と文化で人を呼び込む

・急速に増加している外国人観光客の取り込みや、2020年の東京オリンピック・パラリンピック等を踏まえた、スポーツコンベンションの受入れなど、ポテンシャルを十分に生かした誘客を行っていく必要がある。

### 4 今後の展開

#### ⑤久留米を知って感じてもらう

- 福岡都市圏乗り込み型のプロモーション「久留米キャンペーン」の拡充（2回⇒6回）
- 住宅販売業者等と連携した、久留米暮らしのPRや、福岡の情報番組での久留米市の移住情報の発信

#### ⑥希望の暮らしをサポートする

- 総合支所窓口や庁内の専門窓口と連携したきめ細やかな相談対応の実施

#### ⑦観光と文化で人を呼び込む

- H30年度に発足する久留米版DMOによるマーケティングに基づいた観光振興策の強化
- 外国人観光客の動向把握や観光案内機能強化によるインバウンドのさらなる推進
- 久留米アリーナオープンを契機としたスポーツコンベンションの誘致



### 1 基本目標の概要

未婚化・晩婚化の進行と夫婦の子どもの数の減少を改善するため、結婚したい人の希望がかなえられるよう、情報提供や出会いを応援する仕組みづくりなど総合的な支援に取り組む。

また、子どもを持ちたい人が、持ちたいときに安心して子どもを産み育てることができるよう、経済的な負担をできるだけ軽減し、仕事と子育てを両立できる社会環境を整えるとともに、子育てに向かう心理的な負担を取り除く取り組みを進める。

#### 基本目標

#### 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

##### 【数値目標】

- ・子育てしやすいまちだと思う市民の割合  
: 70.8%(H26年度) ⇒ 80%(H31年度)

#### 施策の基本的方向

- ⑧ 希望がかなう就労環境を整える
- ⑨ 結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

#### 重点事業

- ⑧関連：雇用・就業応援パッケージ（ワーク・ライフ・バランス応援事業、女性活躍促進事業）
- ⑨関連：移住・定住安心サポートパッケージ（子育てつよーいみかた事業）

### 2 平成29年度の新規・拡充の取り組み等

#### ⑧ 希望がかなう就労環境を整える

- ・子育てしやすい職場環境づくりなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む企業に対し、取組み費用の一部を助成
- ・産学官が連携したインターンシップ企業説明会の実施



産学官が連携したインターンシップ企業説明会

#### ⑨ 結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

- ・妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を実施する「こども子育てサポートセンター」の開設（H29年10月）
- ・学童保育所における、高学年児童の受け入れ拡大（23校区→36校区）
- ・待機児童解消を目的に、保育士雇用の安定を図るための保育士雇用に係る経費の助成や潜在保育士の就業促進を図る経費の助成を実施
- ・結婚支援コーディネーターによる企業等の従業員への情報提供や、婚活相談対応、企業間のマッチングコーディネートの実施（登録事業者H28年36事業所→73事業所）
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーそれぞれのスーパーバイザーの配置による教育相談体制の強化



こども子育てサポートセンター開設



恋愛結婚応援セミナー

### 3 数値目標・KPI・課題

#### 数値目標

数値目標	基準値⇒ H31目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
子育てしやすいと思う市民の割合	70.8% ▼ 80.0%	H27	72.0%	78.7%	○	A
		H28	73.0%	78.1%	○	
		H29	75.0%	78.0%	○	
		H30	78.0%			
		H31	80.0%			

#### ■評価のポイント

・各年度目標は3年連続で達成している。実績値は28、29年度と停滞傾向にあるが、子育て世帯では、目標値を上回る高い水準で毎年上昇しており、計画の着実な実施と情報発信に取り組むことで、最終年度の目標値を達成できると見込まれる。

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) -：現時点では判断が困難

A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

#### KPI

施策の基本的方向	KPI数	H29年度の進捗度			目標年度（H31年度末）の達成見込み		
⑧希望がかなう就労環境を整える	4	○ 1	× 2	- 1	A 1	B 3	
⑨結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする	11	○ 6	△ 1	× 1	- 3	A 6	B 5

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) -：現時点では判断が困難

A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

#### 課題

#### ⑧ 希望がかなう就労環境を整える

- ・ワーク・ライフ・バランスの取り組みの市内企業への更なる普及が必要である
- ・市内大学等の卒業生の市内企業への就職率向上への取組みの強化が必要である

#### ⑨ 結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

- ・保育所等の待機児童解消、学童保育所での児童の受入拡大、こども子育てサポートセンターでの妊娠から子育て期までの切れ目のない支援の充実等に更に取り組んでいく必要がある。
- ・全国学力・学習状況調査における正答率の改善や、いじめの解消に向けた取組みの充実・強化を図る必要がある。

### 4 今後の展開

#### ⑧ 希望がかなう就労環境を整える

- ・ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む企業に対する助成金の補助要件に「介護」を追加し、仕事と家庭を両立しやすい職場環境づくりを促す
- ・全国的に優れた強みを有する市内企業の魅力発信や、これまでに作成した情報誌「久留米で 働こう！」を活用した情報発信による市内企業への就職率向上に取り組む
- ・地域のリーダーとなるような女性の発掘・育成を行う女性のまちづくり参画講座を実施する

#### ⑨ 結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

- ・待機児童の解消に向けた保育士人材の確保・定着や送迎保育ステーション事業に取り組むとともに、学童保育所の施設や指導員の確保、こども子育てサポートセンターの地域センター開設準備に取り組む。
- ・学力向上を目指して、児童・生徒の状況に応じたきめ細やかな学習機会の提供及び授業力の強化、英語教育の充実などに取り組む。また、いじめ解消では的確な認知、早期発見及び早期対応を徹底する。

### 1 基本目標の概要

市街地の拡散的拡大を抑制しながら高次都市機能の集約を図るとともに、住み慣れた地域での生活サービス機能等を維持するため、広域求心力のある中心拠点と日常の生活圏の中心となる地域の生活拠点とが相互に補完し合うネットワーク型のコンパクトな都市づくりを進める。

また、地域で支えあう仕組みを構築し、人々が健康と安心を実感できる、「住みたい、住みつづけられる」まちづくりを推進する。

#### 基本目標

##### 安心な暮らしを守る

- 【数値目標】
- 住みたいと思う市民の割合：75.4%(H26年度) ⇒ 80%(H31年度)

#### 重点事業

- 【⑩関連】
- 耳納北麓グリーンアルカディア創生パッケージ（久大本線新駅の設置促進事業）
  - 移住・定住安心サポートパッケージ（空き家活用新生活推進事業）

#### 施策の基本的方向

- ⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる
- ⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

### 2 平成29年度の新規・拡充の取り組み等

#### ⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる

- 銀座地区優良建築物等の整備事業の完了（84戸整備）
- 空き店舗活用促進イベント（空き店舗ツアー）の実施
- コミュニティサイクルポートの増設（16ラック）
- よりみちバスのダイヤ改正、無料キャンペーンの実施
- 空き家活用推進協議会の設立（H29.5）
- 地域提案型空き家活用事業（調査事業）の制度開始



銀座地区優良建築物の整備

#### ⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

- 健診予約の対応充実のためのコールセンター受付時間延長
- コンビニ健診の充実やがん検診の受診勧奨の実施
- 夏期巡回ラジオ体操の招致、『ラジオ体操DE健康タウン』モデル地域認定などラジオ体操のさらなる普及啓発
- 関係団体等との協働のもと、市全域でスポーツ教室を展開
- 救急車からドクターカーへと患者を引き継ぐドッキングポイントの拡充
- セーフコミュニティ再認証取得に向けた各種取り組み実施
- 青パト導入補助制度の新設による導入校区拡充及び合同パトロールの実施
- 市民の浸水対策のための内水ハザードマップの活用支援



よりみちバス



青パトの合同パトロール

### 3 数値目標・KPI・課題

#### 数値目標

数値目標	H26基準値→ H31目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
		H27	76.0%	73.0%	×	
H28	77.0%	76.4%	×			
H29	78.0%	72.2%	×			
H30	79.0%					
H31	80.0%					

- ：達成できた(100%以上)
- △：概ね達成できた(70-100%未満)
- ×：達成できなかった(70%未満)
- ：現時点では判断が困難
- A：目標を達成できる見込み
- B：目標達成には努力を要する
- C：目標達成には厳しい状況にある

#### KPI

施策の基本的方向	KPI数	H29年度の進捗度				目標年度（H31年度末）の達成見込み	
		○	△	×	-	A	B
⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる	13	4	2	4	3	4	9
⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る	5	2	1	2		2	3

- ：達成できた(100%以上)
- △：概ね達成できた(70-100%未満)
- ×：達成できなかった(70%未満)
- ：現時点では判断が困難
- A：目標を達成できる見込み
- B：目標達成には努力を要する
- C：目標達成には厳しい状況にある

#### 課題

#### ⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる

- 地域交通において、公共交通では年間乗降客数が目標を下回り、生活支援交通においても乗客数が伸び悩むなど地域交通の利用促進に向けた更なる取組が必要である。
- 今後も空き家件数の増加が見込まれており、空き家の流通促進や地域のニーズに応じた空き家活用の推進・拡充が必要である。

#### ⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

- 健診受診率が低い働きざかり世代への効果的な受診勧奨や受診しやすい環境の整備、手軽にできるラジオ体操やウォーキングの普及の取り組みが必要である。
- セーフコミュニティの各種取り組みの裾野拡大による、市民のけがや事故・犯罪件数の減少などの安全・安心につなげていくため、若年層や子育て世代、企業等への普及啓発等が必要である。

### 4 今後の展開

#### ⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる

- 交通結節点機能の強化や駅構内のバリアフリー化の推進による公共交通の利便性向上
- コミュニティタクシーの拡大やよりみちバスの運行改善による地域支援交通の充実
- 空き家活用推進協議会と連携した空き家バンクの充実や地域提案型による空き家の有効活用

#### ⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

- 健診を受診しやすい環境づくりのため、ニーズに即したインターネット予約の導入や受診機会の拡充
- ラジオ体操普及のための市民ラジオ体操の集いの会場増設や企業と連携したウォーキングの普及活動
- セーフコミュニティ再認証の取得をはじめ、各施策の更なる充実、効果確認
- 安全・安心なまちづくりを推進するため、全校区への青パト導入や街頭防犯カメラ、道路附属照明灯の整備

1 基本目標の概要

久留米市が県南地域の中核都市として今後も持続的に発展していくため、連携中枢都市として、地域全体のけん引を担い、近隣市町との連携により久留米広域連携中枢都市圏を形成し、「住み続けたい、暮らしてみたい、訪れてみたい」と支持される魅力ある圏域づくりを推進する。

基本目標	施策の基本的方向
<p><b>広域拠点の役割を果たす</b> 【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>久留米市の滞在人口（15歳以上80歳未満） 平日：241,724人 → 基準値滞在人口を維持する 休日：240,408人 (平成27年)</li> </ul>	<p>⑫ 連携中枢都市として圏域の魅力を高め、大都市圏への人の流れを食い止める</p>

**重点事業**

- 「圏域全体の経済成長のけん引」  
地域資源を活かした地域経済の裾野拡大や地域産業の育成、戦略的な観光の推進 など
- 「高次の都市機能の集積・強化」  
圏域全体の賑わいづくり、高度な医療サービスの提供、文化芸術に触れる機会の提供 など
- 「生活関連機能サービスの向上」  
地域医療、子育て支援、地域公共交通、地域内外の住民との交流・移住促進 など

2 平成29年度の取り組み等

- 圏域全体の経済成長のけん引（21事業）
  - ・アンテナショップ「福岡久留米館」を7/22にオープンし、圏域の魅力発信のため、各市町による魅力を発信するイベントを実施（22回）
  - ・4市2町でメッセナゴヤ2017に出展し、企業誘致活動やPRを実施
  - ・観光サイクル事業でうきは市と連携したサイクルスタンプラリーを実施
  - ・魅力ある観光商品づくりでは、体験型観光商品「まち旅博覧会」を開催  
全80プログラム80件中、3市2町関連プログラム10件
- 高次の都市機能の集積・強化（5事業）
  - ・久留米シティプラザ等を舞台に九州最大級の大道芸フェスティバルを開催  
プレイベントとして「うきは祭り」にて大道芸パフォーマンスを実施
  - ・「チェコ・フィルハーモニー管弦楽団講演」等で圏域住民向け先行予約枠設定
- 圏域全体の生活関連機能サービスの向上（17事業）
  - ・病児保育事業では、久留米市田主丸町に1施設を新設  
5施設、定員23名となった
  - ・公共交通に親しんでもらう「バス鉄道フェスタ」を開催（9/23）  
圏域からもイメージキャラクターや物産店を出展（来場者約8,000人）
  - ・久留米市の電力入札に関するノウハウを活用し、4市1町（208施設）で電力入札を10月に実施。電気料金をトータルで約2.9億円削減



福岡久留米館オープニング式典



チェコ・フィルハーモニー



バス鉄道フェスタ

3 数値目標・KPI・課題

**数値目標**

数値目標	基準値⇒ H31目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
久留米市の滞在人口	基準年の滞在人口 平日：241,724人 休日：240,408人 (15歳以上80歳未満) を維持する	H27	滞在人口を維持	—	—	B
		H28	滞在人口を維持	平日：240,014人 休日：239,602人	×	
		H29	滞在人口を維持	集計中	—	
		H30	滞在人口を維持			
		H31	滞在人口を維持			

■評価のポイント

- ・国の地域経済分析システム(リーサス)の集計方法が変更されたことから、目標値を改めて設定。平成29年度は現時点では数値が未発表のため、評価「—」とした。
- ・人口が減少局面に入ったとみられ、また大都市圏への転出超過傾向が続いている中、交流人口を維持することは、更なる努力が必要であることから平成31年度末の目標達成見込みは「B」としている。

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) —：現時点では判断が困難  
A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

**KPI**

施策の基本的方向	KPI数	H29年度の進捗度	目標年度（H31年度末）の達成見込み
⑫連携中枢都市圏として圏域の魅力を高め、大都市圏への人の流れを食い止める	1	△ 1	B 1

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) —：現時点では判断が困難  
A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

**課題**

- ・福岡都市圏や東京圏等への転出超過傾向の改善に向けた、施策の展開
- ・全国にファンをつくり、本圏域への交流人口・移住人口の増加や特産品の販路拡大につなげていくため、大都市圏における情報発信を強化し、本圏域の知名度向上を図る必要がある。
- ・圏域自治体との更なる連携強化や、産学官民が一体となった事業の推進が必要

4 今後の展開

- 圏域全体の経済成長の牽引
  - ・市内大学やシティプラザのほか、圏域の学生が多く進学する福岡大学において、合同会社説明会を開催
  - ・首都圏における、イベント等の実施を通じた集客拡大、圏域の知名度向上や特産品の販路拡大施策の実施
  - ・共同で圏域の魅力発信イベントを開催など、広域での観光キャンペーン実施
- 高次の都市機能の集積・強化
  - ・音楽やミュージカル等の圏域住民向けの先行予約枠設定
- 圏域全体の生活関連機能サービスの向上
  - ・首都圏における、移住促進イベントの開催
  - ・前年に引き続き、電力入札において、広域で連携した入札事務の実施、及び対象施設の調査・選別、仕様書作成などの技術的な連携強化